日本列島最古のサピエンス その姿を香坂山遺跡に追う

主催：佐久考古学会
後援：佐久市教育委員会

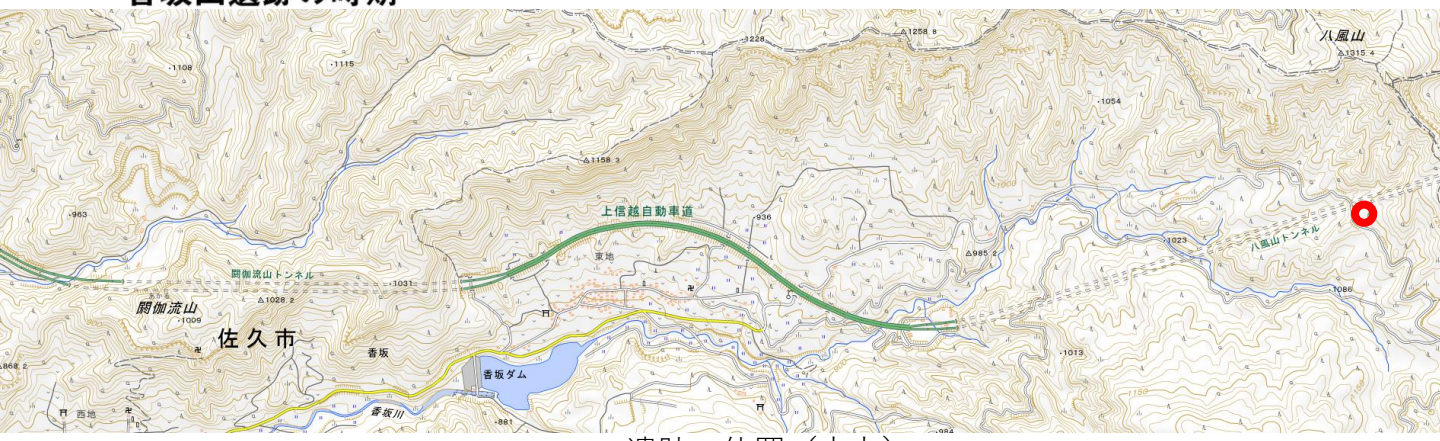
長野県佐久市香坂山遺跡の発掘調査速報

国武 貞克（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）

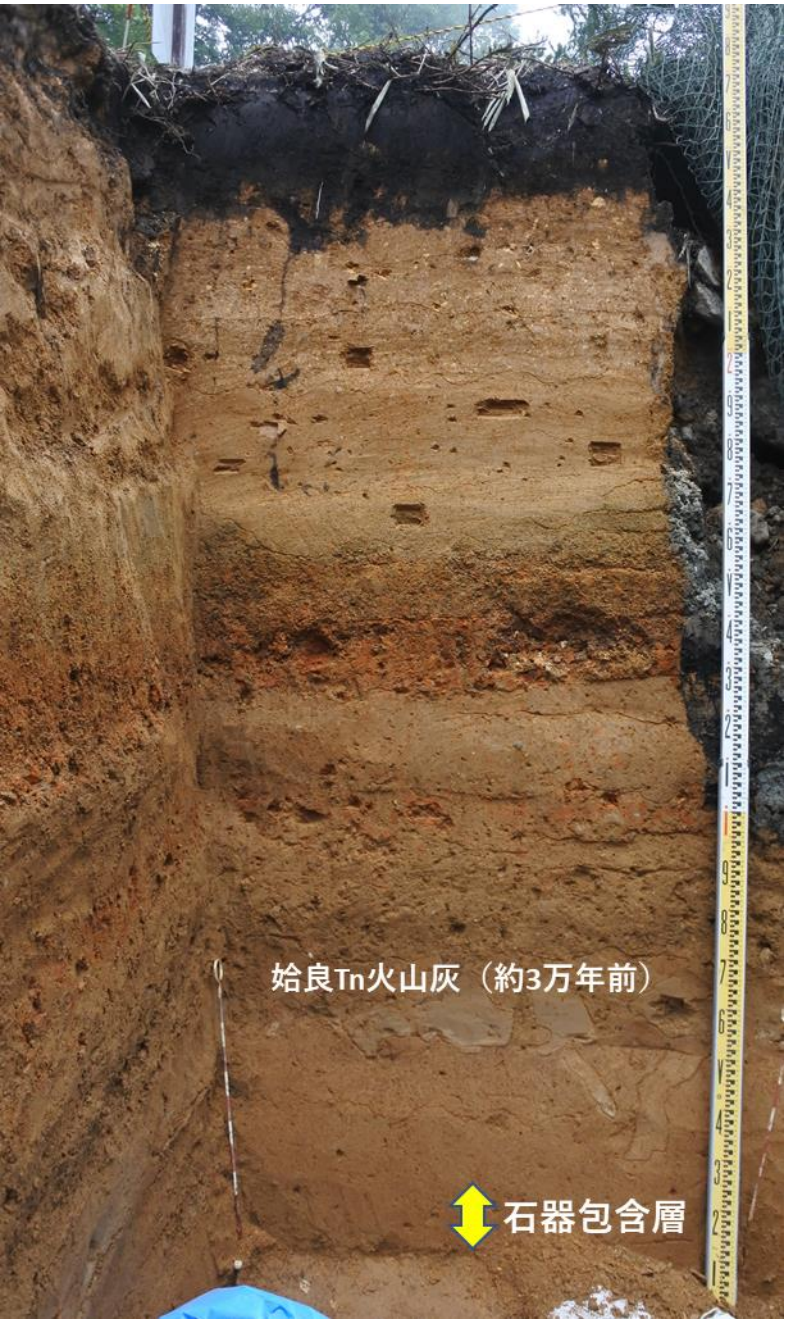
【調査のねらい】

・日本列島における石刃生産技術の発生過程が、中央アジアから東アジアに至るユーラシアの同時期の石器群の発展と、どのような関係にあるのか解明することが最終的な目標です。
・このため石刃遺跡として最古の年代が得られた香坂山遺跡（長野県佐久市）で炭化物を採取し、列島の石刃生産技術の発生年代を精確に解明します。
・あわせて、最古の石刃石器群に関わる新資料を入手し、この時期の石器製作技術や技術組成を解明します。

【日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B 代表国武19H01354）による調査です】



遺跡の位置（赤丸）



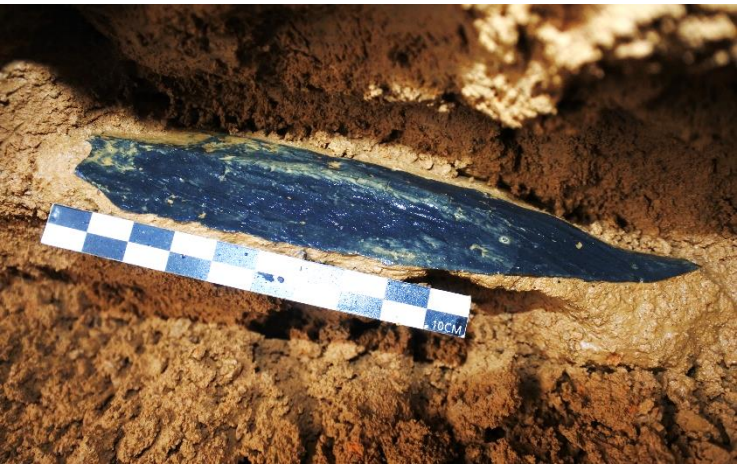
第1次調査E区の土層堆積状況

香坂山遺跡は上信越自動車道の立坑地上施設の建設に伴い、1997年に長野県埋蔵文化財センターによってはじめて発見されて発掘調査され390点の石器が出土しました。

2020年8月から9月にその西端と西南の隣接地で7か所の調査区を設定し、約134㎡を発掘調査しました。

石器は、約3万年前の姶良Tn火山灰(AT)を含む層から約50㎝下位の地層から約800点出土しました。地表から280㎝の深さです。

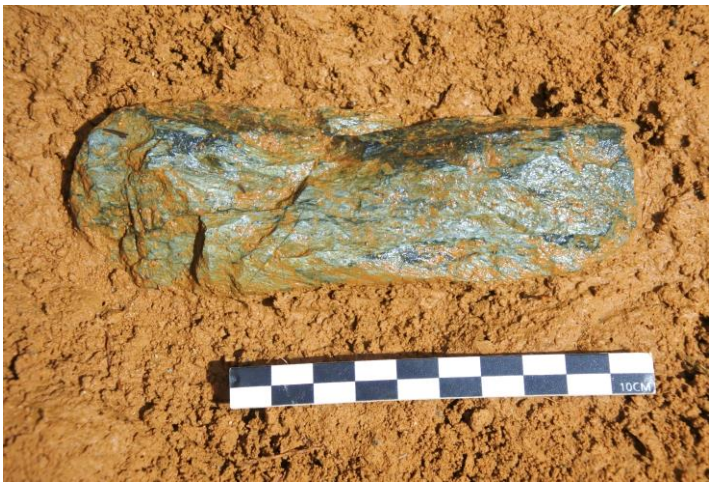
3次調査C区で大型石刃の製作跡を検出しました。石刃核と剥片砕片を伴います。



大型石刃出土状況（長さ16cm、幅3cm）

大型石刃素材の小石刃核も出土しました。

2次調査KS区で刃部磨製石斧が出土しました。



石斧は秩父帯の緑色岩製、列島最古の完形品です。

D区で尖頭形剥片の製作跡を検出しました。石核と剥片砕片を伴います。

第2次では大型石刃と尖頭形剥片が基本組成でしたが、第3次ではそれぞれの製作跡を検出しました。

【わかったこと；未知の石器組成】

・**大型石刃**と**尖頭形剥片**、**小石刃**の組み合わせが、この遺跡の石器の基本組成です。
・それぞれの**製作跡**を検出しました。
・これに**刃部磨製石斧**が加わります。

【課題；ユーラシアでの位置づけ】

・放射性炭素年代測定で年代を確定します。
・大型石刃と尖頭形剥片の基本組成を手掛かりにユーラシア全体の動向に位置付けます。

堤隆氏と須藤隆司氏に調査ご指導を頂きました。